

「じたんぴん」は「紙と墨」の「紙」を「じたん」と「ぴん」として「紙と墨の文化」を「じたんぴん」として「紙と墨の文化」を「じたんぴん」として「紙と墨の文化」

はじめに

歴史資料継承機構ニュースレター『じゃんぴん』第2号をお届け致します!! 第1号発行後、多くの皆さまから「『じゃんぴん』ってどういう意味??」とのご質問を頂きました。これには2つの意味があり、ひとつは「飛ぶ」という意味の「jumpin'」。もうひとつは「飛び込む」という意味の「jump in」です。私たちはその地域に飛び込んで、地域の歴史を未来へと飛躍する活動をしようとの考えから、このように名付けました。ぜひ、第2号から私たちの活動をご理解頂ければ幸いです。

歴史資料継承機構代表理事 西村慎太郎

8月 石室神社小澤良守家文書調査

2006年8月24日・25日にかけて、石廊崎を訪問致しました。作業内容は石廊崎小澤良守家文書の保存活動です。修復を依頼した特定非営利活動法人「文化財を守る会」会員の山口聡太郎さん(株式会社墨仁堂)にサンプルをお持ち頂き、これからの修復方針を所蔵者の方と共に検討致しました。板張りになっていた古文書が見事に修復されており、同法人の皆様とボランティアで修復に当たって下さった方々に心から感謝致します。



また、今回は南伊豆町の方々とこれからの石廊崎プロジェクトについて話し合うことができました。具体的な活動については次のようなものを検討致しました。

- ・地域の方々を対象とした古文書講座や歴史講座
- ・地域の歴史について記したパンフレットや書籍の出版
- ・石廊崎地域以外の南伊豆地域における古文書の調査・保存活動

そこで10月19日の理事会において(理事会の記録については最終頁をご参照下さい)、歴史講座開催を決定致しました。時期は未定ですが、年度内の開催を目指しております。地域の方々に石廊崎の歴史とはどのようなものであったのか、当地に残された古文書から分かりやすく、お伝えしたいと思っております。会員の皆さまの中でも、ぜひこの講座でお話したい方がございましたら、当法人までご連絡下さい(連絡先は最終頁をご参照下さい)。

今後、石廊崎地域での活動をさらに展開して参りますが、合わせて、南伊豆地域全体にフィールドを広げていこうと考えております。これには石廊崎における保存修復活動に一区切りが付いたという点が大きな理由です。既述のように、今後も石廊崎地域における保存活動や書籍刊行を行ないませんが、南伊豆地域にはまだまだ救出して、保存し、地域の歴史として皆様にアピールすべき歴史資料が眠っております。

8月25日の調査時に、南伊豆町上賀茂の渡辺亮家文書の状況確認を実施。上賀茂村名主・戸長を勤めた同家では近世から近代にかけての当該地域を詳述するための貴重な歴史資料が多く確認されました。御当主による整理作業が成されていたので、それをさらに保存の観点から整理していくこととなりました。それが次に掲げます上賀茂渡辺亮家文書調査です!!!

9月 上賀茂渡辺亮家文書調査

2006年9月23日・24日にかけて、上賀茂渡辺亮家文書の調査を行ないました。同家の史料は発泡スチロール製の箱9箱に収められていて、既に御当主によって箱番号が付けられております。それに従って、箱1から現在の状態を確認の上、一点一点調書を作成致しました。これらの作業の詳細については、調査の区切りが付いた段階で調査概報、あるいは調査報告書として皆様に御届け致したいと思っております。また、会報『じゃんぴん』でも史料紹介を掲載していきたいと考えています!!!今回は「石山銘細取調書上帳」(1-81)の紹介を掲載致しますので、御覧下さい。

現在のところ、箱1の途中まで(番号1~80)、保存のための処置と調書作成が終了致しました。内容は明治維新政府の布達、河川普請関係の史料、年貢取立帳などです。このうち、河川普請とは、上賀茂村を流れる一条川の堤防普請や川浚いに関するものです。最も古い史料としては宝暦10年(1760)「田畑屋敷名寄写帳」がありました。

当該期の上賀茂村を知る上で貴重な史料群であるのみならず、いまだに解明されていない賀茂石の産出に関わる資料を豊富に含んでおり、今後の調査が非常に楽しみです。

以上、石室神社の小澤良守様・小澤孝宗様、渡辺亮様、南伊豆町町議会議員保坂好明様には多大なご尽力を頂きました。心より感謝致します。

2006年10月18日、静岡市文化財資料館において、文化財こんだん会『石廊崎に伝わる古文書とその修復』が開催されました(主催:静岡市文化財協会・特定非営利活動法人文化財を守る会)。

午後1時半、静岡市文化財協会会長松永伍市様の挨拶で始まった当会には、30名近くの方々にご出席頂きました。第1報告は西村慎太郎による

「石廊崎の歴史と古文書 ー小澤良守家文書、小澤一三家文書について」、

第2報告は山口聰太郎さん(特定非営利活動法人「文化財を守る会」会員、株式会社墨仁堂代表取締役)による「古文書修理の伝統技術と、古文書修理ボランティアの可能性」でした。

西村報告では、当法人の活動について触れた上で、石廊崎に遺された古文書を用いて、①江戸時代以前の様相、②江戸時代の石廊崎の人々の生業や湊町としての大きな発展、③信仰地としての石室神社に関することが説明されました。

山口報告では、特定非営利活動法人「文化財を守る会」が考える「文化財」を詳しく述べ、現在行なって頂いている石廊崎の古文書の修復方法について細かくご説明がありました。また、古文書修復をボランティアが行なうことの可能性と展望について述べて頂きました。

報告後、出席者の方から、地域資料をどのように遺していけるか、また、ボランティアがどのような作業が行なえるかなどが討論されました。また、具体的な文化財行政についてなども活発に話し合われました。

文化財こんだん会の報告させて頂き、静岡市文化財協会・特定非営利活動法人文化財を守る会の皆様に感謝致します。(文責 西村慎太郎)

石廊崎プロジェクト
活動中!

10月18日 文化財懇談会報告

歴史物語 その1 —南伊豆の風と波と神と人—

黒滔々たる闇の中で、波は大きく上へ下へ。うねると言うより、呻ると言った感覚。雨はない。ただ、龍の鳴き声の如き風音が絶え間なく、志摩国鳥羽の湊を出帆してから、時化が酷くなる一方で、全長20メートルを越える船体を揺らす。乗組員は、大声で歌い、仲間と自分を鼓舞しつつ、希望の灯を瞬きせずに探索する。

(あれか・・・?)

知多出身の水主が気付いた。遠く、遠く、呑み込まれそうな暗闇の先に、蛍光の如く、ポーッと揺らめいている。声にならない程の喜悦と感嘆、そして、絶叫。「明かり堂じゃ！権現様の明かり堂じゃ！」

伊豆半島の最南端に位置する石廊崎は黒潮による西からの強い波を、そして季節風による西からの強い風をまともに受け、多くの船が難破した。しかし、西から東への移動や輸送、反対に東から西へのそれは、この地を通らなければ、箱根の山を通る必要がある。大きな移動や輸送には海上交通が不可欠であり、この問題に多くの人々が頭を悩ませることとなった。

1620年代から30年代にかけて建設された「湊明かり堂」はこの地域の実験失敗を激減させたが、それはまだまだ後の話。全6回にわたる『石廊崎の歴史物語』では、前半で太古の昔から「湊明かり堂」建設までを掲載したい。

名前募集！！

歴史資料継承機構キャラクターの名前を募集いたします。

左のけなげなコにステキな名前を考えてください。

応募・ご質問などは奥付までお願いいたします。

古文書キャラ

- ・けなげ
- ・使命感強し
- ・風雨や日光に弱い
- ・長い年月旅を
してきているので、
基本ボロボロ



翻刻作業のお知らせ

石廊崎プロジェクトで撮影した古文書の翻刻に御協力を頂ける会員の方を募集致します。翻刻作業をして頂ける方には、事務局より古文書の写真(デジカメによるデータ)をメールにてお送り致します。ぜひ、翻刻作業に御協力頂ける方は御連絡をお願い致します。

会員募集のお知らせ

当会の活動に賛同し、協力して下さる会員を募集しております。一緒に日本文化と「歴史資料」継承活動に取り組みませんか?参加資格は「歴史資料」を通じて地域貢献をしたいと考えている方でしたら、どなたでも構いません。

会員の種別・年会費

- (1)正会員 個人3,000円 団体30,000円
- (2)賛助会員 個人1口以上(1口 1,000円)
団体1口以上(1口 10,000円)

会員特典

- (1)会誌・会報の頒布
- (2)報告会・講座・講習会などのイベントの案内頒布
- (3)報告会・講座・講習会などのイベントの参加費割引
- (4)諸プロジェクトへの参加

ご興味のある方はお問い合わせ下さい。資料をお送り致します。また、入会したい方は①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号を明記の上、メール・郵便で御連絡下さい。折り返し資料と会費納入の御案内をお送り致します。

NPO法人 歴史資料継承機構News Letter
じゃんぴん Vol.2

《発行》
〒198-0063
東京都青梅市梅郷3-863-2西村方
NPO法人 歴史資料継承機構
E-mail: rekishishiryokeisho@yahoo.co.jp

《発行者》
NPO法人 歴史資料継承機構
代表理事 西村 慎太郎